



neconote

with Cat Welfare Society

- ①団体概要
- ②事業概要
- ③事業に期待する効果
- ④対応するSDGsのゴール
- ⑤連携を期待するリソース、
- ⑥事業のスケジュール
- ⑦ネットワーク団体へのメッセージ





株式会社neconote

「保護猫団体の"猫の手"」として、ビジネスで保護猫団体の"自続可能性"を高め、猫と暮らしていける社会をつくっています。

主な事業に、猫が助かる猫の推し活サービス「neco-note」や企業のCSR/CSV支援、譲渡会の企画運営、保護猫団体の活動支援支援（新規事業、PPP、ファンドレイズ）、保護猫フォスター型住宅コンサル、保護猫カルチャーの啓発本制作などがある。



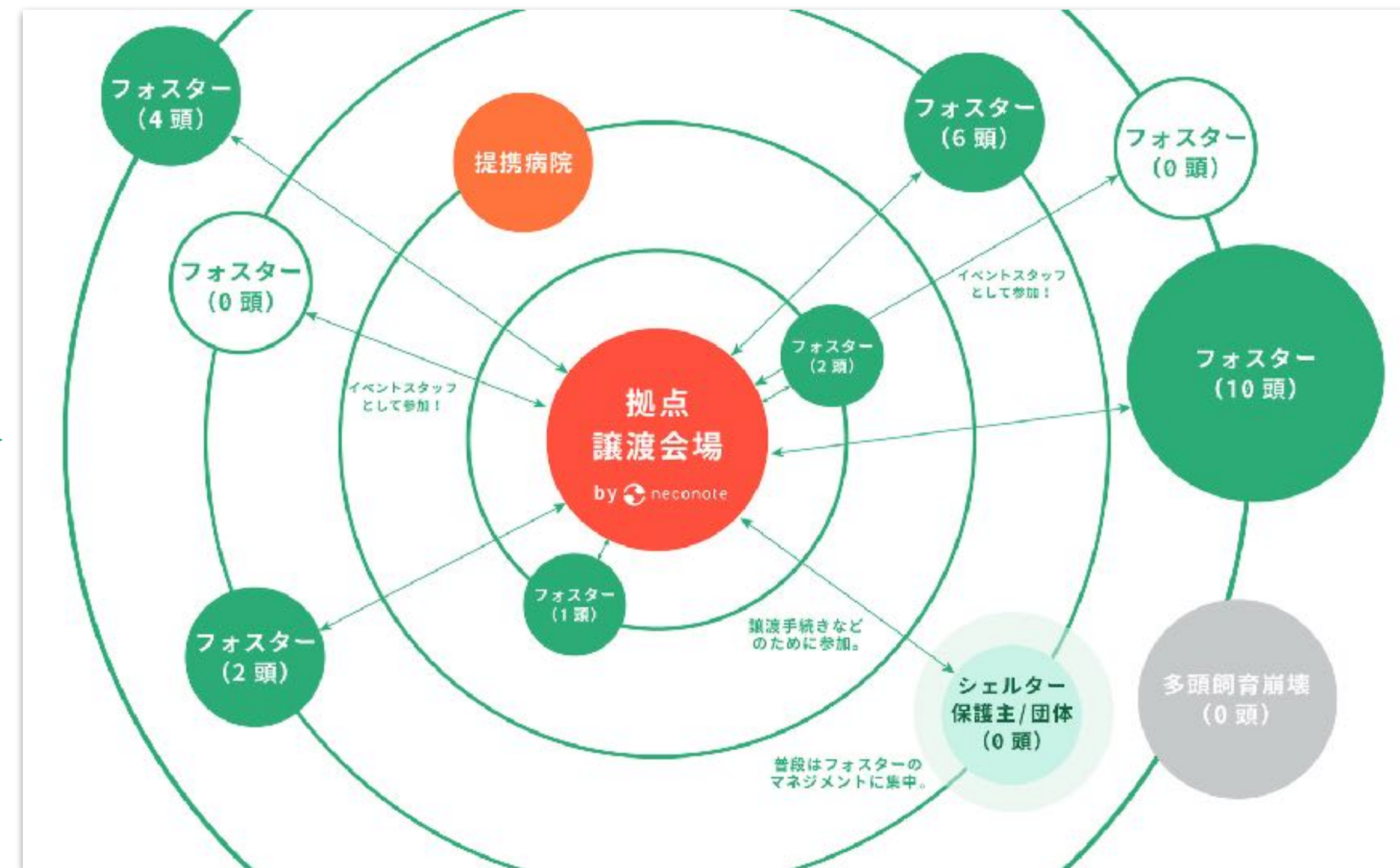
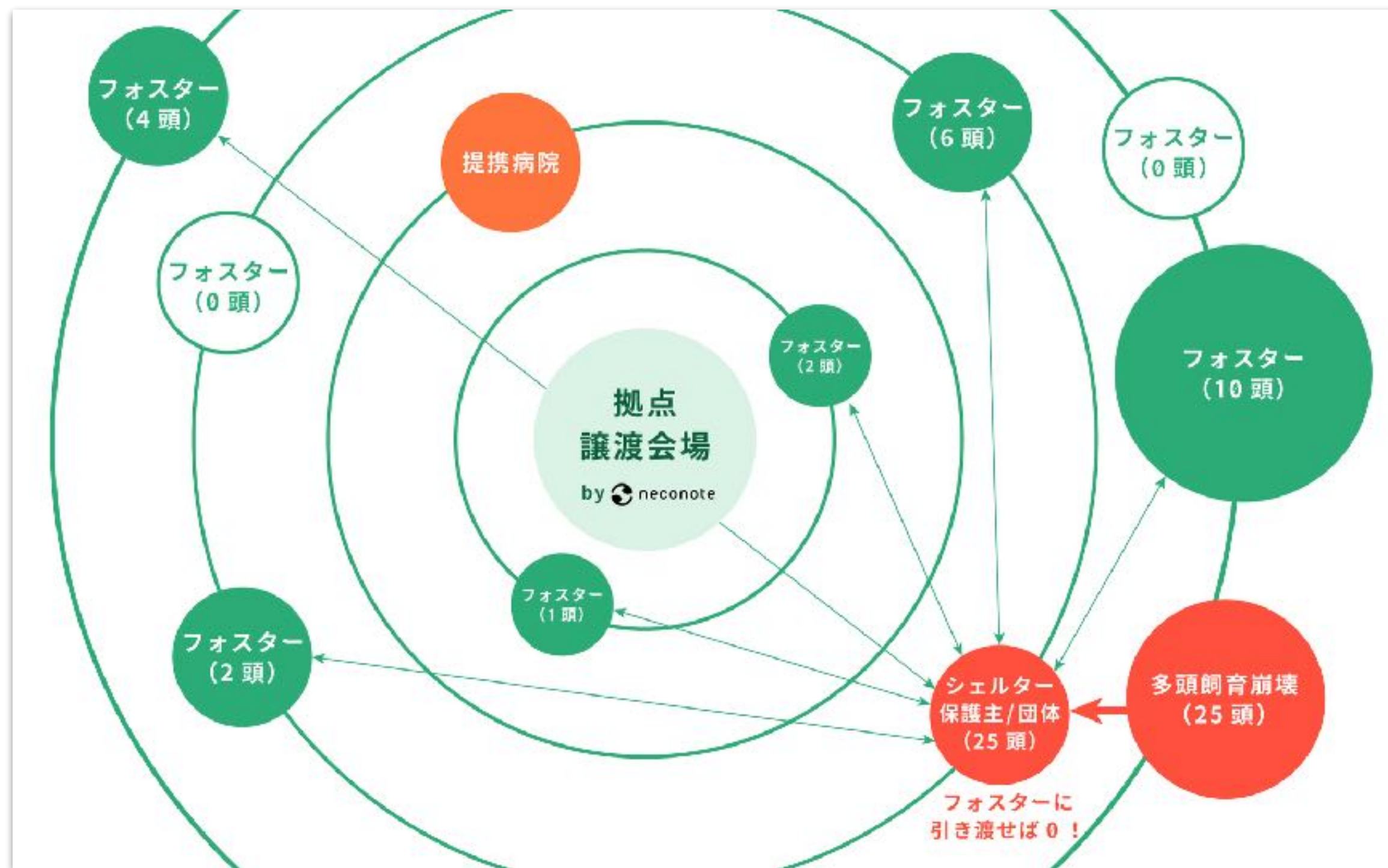
黛 純太 / Junta Mayuzumi

株式会社neconote 代表取締役。1994年生まれ。

2017年2月に弊社前身chatを立ち上げ、ドイツへの視察や50以上の保護猫団体へのインタビューを敢行。

広告代理店、まちづくり会社勤務を経て、2021年に保護猫団体支援のフリーランスとして独立。同年10月に(株)neconoteを立ち上げた。2年間の保護猫シェルターに住み込み経験あり。





『まちシェルター』構想

現在、保護猫活動のほとんどを保護猫団体が担っていますが、負荷が集中してしまっていることが課題視されています。批判の声も集まりやすい活動ゆえに、外部との関係を絶ってきたことに起因しています。

その課題を解決するのがこの『まちシェルター』です。例えば25頭の多頭飼育崩壊が発生した場合、現在は保護団体や保健所が請け負いますが、それを町に点在するフォスター（預かりボランティア）に分散します。保護猫団体はフォスター（およびそこにいる猫）を管理しつつ、譲渡会を開催。そこにフォスターと保護猫たちが集まってくる仕組みです。譲渡会の会場は**空き家や行政施設の利活用を想定**しています。





猫を中心とした地域コミュニティ

野良猫は、糞尿被害もあり地域課題と捉えられがちです。いっぽうで、適切に管理できれば**地域資産**として捉え直すことができると私たちは考えています。

前頁で紹介したように、地域に保護猫活動のネットワークが形成されれば、餌やりボランティアと呼ばれるように、野良猫への餌やりやトイレの清掃管理、個体把握などの関わり方も可能になります。関わり方が広がれば、猫の味方も増えるということ。それが猫たちにとってのセーフティネットになります。

当社の黛が前職でまちづくり会社に勤務していた経験を活かしサポートいたします。



「野良猫」を活用した地域課題解決

ボランティアは奉仕活動のように語られますが、参加している人にとっては居場所のようなものでもあります。

例えば仕事をリタイアした高齢者は、社会との接点を持ちにくい。**保護猫活動ボランティアに参加することで地域との繋がりを持つことができ、孤立化の防止にも繋がります。**身体を動かすのが難しければ、フォスター（預かりボランティア）をすることで貢献できますし、保護猫団体との接点が定期的に発生します。





高齢者ネコシェアリング及び
ネココミュニティ事業

- 保護猫お預かりさん事業
- 高齢者ネココミュニティ見守り
- 高齢者孤立化を防ぐ

ふるさと納税の詳細ページ

<https://www.furusato-tax.jp/feature/detail/21217/10788>

参考事例 『SAVE THE CAT HIDA』 by ネコリパブリック

同様の取り組みとして、当社が事業計画を手掛けた『SAVE THE CAT HIDA』があります。一昨年はふるさと納税の仕組みを活用し1億7千万の事業資金を調達。現在すでにシェルターを飛騨市にオープンし、町ぐるみでの保護猫活動に動きはじめています。

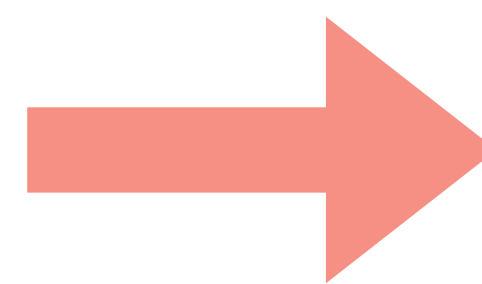
このプロジェクトの特徴は、フォスター（預かりボランティア）に高齢者を積極的に起用していく点です。猫を飼いたい高齢者は多いものの、寿命との関係で譲渡は難しいのが課題とされています。しかしフォスターであれば猫と暮らすことは可能です。定期的に保護猫団体のスタッフが巡回に伺うので、高齢者（もちろんフォスター全員）の社会からの孤立を防ぐ機能にも期待されています。



高齢化、孤立化

県の予算低減

R2年度 約9400万



結果として、

- 殺処分ゼロの継続
- 保護団体への負担軽減
- 県内の保護活動に対する気運上昇



4 質の高い教育を
みんなに



ペットとの暮らしは情操教育の第一歩

幼少期からペットと暮らしている人のほうが、動物を取り巻く環境や動物福祉などに興味関心が強い傾向にあります。ペットとの暮らしが命を大切にする情操教育の代位歩であると言えます。

11 住み続けられる
まちづくりを



人との繋がりで自分のまちを暮らしやすく

日本全域で核家族化をきっかけとした家族や近隣住民との繋がりの希薄化が、孤独死や犯罪などの社会問題の原因となり、問題視されています。家族や職場以外に所属するコミュニティを持つことが、社会との繋がりとなり心身の安全を守ることに繋がります。

12 つくる責任
つかう責任



命の大量生産大量消費を抑制していく

ペットとの出会いを見直すことは、ペット産業がもたらす命の大量生産大量消費（および大量廃棄）を減らしていくことに繋がります。整体販売と譲渡活動のどちらも選択肢を提示することで、自らの意思で命との出会い方を選ぶ環境を整えていきます。



- 拠点となる場所のご提供
- 拠点に人が集まるためのコンテンツなどのご提供



スケジュール

今年中を目標にチーム編成

提携保護団体：随時相談中

拠点場所：官民へ打診中





neconote

with Cat Welfare Society

お問合せ先：

担当 黛 (mayuzumi@neconote.co.jp)

